

永弘は渡名喜島で焚刑に処された。さらにその後、宗門改めの踏み絵により嘉善氏五世宮良与人永定（六男）もキリシタンと発覚。一六三八年、同じ新川（喜田盛）のオンナーで焚刑に処された。一六四二年、友人の大城与人安師は祖父の三司官大新城親方安基一族、妹の長女・大阿母真比の夫・石垣親雲上信本、妹の二女・鍋山の夫、大浜親雲上英森らの働きかけにより御救免され帰島した。こうしてこの事件は幕を閉じる。これが薩摩侵入後（一六〇九年）の琉球唯一のキリシタン禁教による弾圧事件である」

慶田盛村居住の各一門の大宗から枝分かれた小宗たち

字新川のピロースク遺跡や川花遺跡群から十六世紀中葉、十七世紀頃の遺物が発見されないことから、一五〇〇年の「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」後に山陽姓一門の人々は、字新川のピロースク（美良底）遺跡の一带から真乙姥御嶽の前方、字新川の海岸よりの慶田盛村一帯に移住したものと推察できる。

慶田盛村住山陽姓大宗宮良親雲上長光（一五八四～一六六一年）の元祖・那礼当（不明～一五〇〇年）の嫡子、美良底首里大屋子保久利思（生没不詳）の字新川二八五番地の屋敷を中心にして寄り添って、嘉平村出自の仲間満慶山（不明～一五〇〇年）の子息で兄弟の現在字新川四〇番地に嘉善姓嘉平首里大屋子大宗永展（生日忌日不詳）、西隣の字五三番地一帯に憲章姓大宗英乘（不詳～一六〇一年）の先祖で長子、嘉平首里大屋子佐加伊が屋敷を構えた。また、波照間島出自の明宇底獅子嘉殿（不明～一五〇〇年）の長男で屋安古与人赤真屋（長興姓大宗善安の祖父）が字新川二七番地一帯、三

男の還宝与人遠戸(大史姓大宗古見与人高教)も字新川六五番地に島移りをしてきた。また、琉球王国から派遣された御使者(御検者)の久米系程氏京阿波根親雲上美基の子息兄弟で上官姓大宗大浜親雲上正廟(不詳、一五八六年)が字新川三三番地、伯言姓大宗大浜親雲上政通(生寿不詳)が字新川一番地一帯、那覇梅氏二世宗榮(一五八八―一六六四年)の子息の梅公姓大宗崎原与人孫廣(一六二〇―一六〇一年)が字新川二九九番地に屋敷を構えた。

十七世紀前半から十七世紀中葉まで、字登野城の岸若村へ嘉善氏四世石垣親雲上永正(一五五〇―一六二〇年)の二男で宮良親雲上(本宮良頭永將・不詳、一六二四年)や三男の宮良親雲上(前宮良頭)永弘(不詳、一六三五年)、現在の字大川(その当時は岸若村)へ三男の宮良与人永定(不詳、一六三八年)、字大川の本名村へ憲章氏四世で長男の大浜親雲上英森(一六〇二―一四二二年)、三男の川平首里大屋子英種(不可考)、字石垣へ二男の大浜与人英政(不可考)、四男の登野城与人英仁(不可考)、山陽姓大宗宮良親雲上長光(一五八四―一六六一年)が字石垣の波揚名村へ、長興姓大宗古見首里大屋子善安(不可考)も字登野城の岸若村へと、津口(港)や新天地を求めて字登野城、字大川へと島移りを行っている。

各一門の大宗から枝分かれをした小宗の子孫たちがどのように字新川の慶田盛村から字登野城、字大川などに島移りを行ったかの変遷を考えたい。

大史姓、憲章姓、嘉善姓、上官姓、長興姓、山陽姓、梅公姓らの各一門の家譜一覧表作成においては、すでに各一門で発刊されている次の資料を参考にした。

- (1) 大史姓一門家譜(大史姓家譜編集委員会『大史姓家譜』昭和四十七 一九七二年 年九月)
- (2) 憲章姓一門家譜(執筆者・喜友名英文『傳記―英傑仲間満慶山―仲間満慶山四百五十年祭記念誌』系圖編集・

南風原英芳『憲章姓系図』昭和二十六 一九五一年十月七日／憲章姓一門會。嘉平村出身の仲間満慶山一族たち、嘉善姓一門と憲章姓一門の人々』二〇〇一年／先島文化研究所)

- (3) 嘉善姓一門家譜(大浜永巨『嘉善姓一門と八重山の歴史』、嘉善姓一門の世系図』一九八八年／先島文化研究所)
- (4) 上官姓一門家譜(上官姓系図編纂委員會、上官姓系図、附録―上官姓大宗大浜頭職正廟翁四百年大祭並生誕祝賀会記録』昭和四十六 一九七一年四月十日／上官姓一門會。『石垣市史叢書 6 上官姓大宗系図家譜』一九九四年／石垣市)

- (5) 長興姓一門家譜(長興姓大宗伝承碑建立委員會、長興姓門中系図大観』昭和五十九 一九八四年十二月二日。長興姓大宗波智山号善安伝承碑建立委員會、長興姓大宗 伝承碑建立落慶記念誌』昭和五十九年九月／長興姓門中)
- (6) 山陽姓一門家譜(発起者・九世宮良長英・十世花城長勝、系図取調部兼訳者・十一世宮良長智謹書。『山陽姓大宗・一門系図』／大正九 一九二〇年。『石垣市史叢書 6 山陽姓大宗系図家譜』一九九四年／石垣市)

- (7) 梅公姓一門家譜(我那覇孫著。『元祖記並同系図』梅公姓系図家譜、太祖四百年祭典執行委員。『太祖四百年祭典記念 梅公姓系図』梅公姓宗族會／昭和二十九 一九五四年一月十七日。牧野孫宣『梅公姓系図家譜小宗―第三世孫格系譜』一九八七年一月／自費出版)

慶田盛村(字新川)の出身者の各一門の大宗から分家し、独自の家譜を所持した大史姓、憲章姓、嘉善姓、上官姓、長興姓、山陽姓、梅公姓の各一門の大宗の方々をリストアップし、『石垣市史八重山史料集 3 豊川家文書』(一九九七年／石垣市)の明治四十三(一九一〇)年、四三 地籍簿』の住所に照合し左記に各一門の家譜一覧表を作成した。

一、大史姓一門の家譜一覧表(表1)

波照間島出自の明宇底獅子嘉殿(不明)一五〇〇年の三男で遺宝与人遠戸の嫡子・大史姓大古見与人高教から始

中。

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
八世高道小宗	六世高政小宗	七世高豆小宗	七世高寧小宗	六世高誉小宗	七世高與小宗	六世高統小宗	五世高岡小宗	五世高吉小宗	五世高成小宗	五世高滿小宗	四世高經小宗	四世高英小宗	大史姓大古高教	家譜名
(七世高家の三男)	(六世高岡の四男)	(六世高道の四男)	(六世高道の三男)	(五世高岡の二男)	(五世高道の二男)	(五世高滿の三男)	(四世高根の五男)	(四世高根の四男)	(四世高根の三男)	(四世高根の二男)	(三世高起の三男)	(三世高起の二男)	(父は遺宝与人遠戸)	続柄
(一七五八)一八二四)	(一七一一)一七八二)	(一七一〇)一七三九)	(不明)	(一七〇〇)一七七一)	(一六九二)一七二四)	(不明)	(一六六七)一七四一)	(不明)	(不明)	(不明)一七〇八)	(不明)	(不明)	生享年日不詳	生卒年
有	有	有	不明	有	有	不明	紛失	不明	不明	有	不明	不明	有	家譜の有無
字新川二五七	字新川三〇四	字新川六二	不明	字新川一九二	字新川三四	不明	字新川三〇三	不明	不明	字大川一五三	不明	不明	字新川六五	(元)住所
花城	神村	西表	(不明)	真謝	伊良皆	(不明)	山川	(不明)	(不明)	上原	(不明)	(不明)	大浜	所蔵者姓名備考

	家譜名	続柄	生卒年	家譜の有無	(元)住所	所蔵者姓名備考
11	七世英高小宗	(六世英董の二男)	(不明)	不明	不明	(不明)
10	六世英休小宗	(五世英玄の二男)	(不明)	紛失	字登野城二二六	南風原
9	六世英董小宗	(五世英岑の二男)	(一六五九～一七二八)	有	字石垣二五八	浦崎
8	五世英住小宗	(四世英盛の四男)	(一六六九～一七四二)	紛失	字新川五三	宮良
7	五世英起小宗	(四世英盛の三男)	(不明)	不明	不明	(不明)
6	五世英秀小宗	(四世英盛の二男)	(不可考)	有	字川平九九六	波照間
5	四世英親小宗	(三世英林の二男)	(不明)	不明	不明	(不明)
4	三世英仁小宗	(二世英恒の四男)	(不可考)	紛失	字石垣九九	宮良
3	三世英種小宗	(二世英恒の三男)	(不可考)	有	字大川二九七	黒島
2	三世英政小宗	(二世英恒の二男)	(不可考)	有	字石垣二九〇	宮良
1	憲章姓大宗英乘	(父は嘉平皇太屋子満慶山)	(不詳～一六〇二)	有	字大川二八七	大浜

二、憲章姓一門の家譜一覧表(表2)

嘉平村出自の仲間満慶山(不明～一五〇〇年)の曾孫で憲章姓大宗石垣親雲上英乗から始まる。

「大史姓一門の家譜一覧表」(表1)より、大宗高教から分家した小宗家譜などは十四件のうち、現存家譜は七件、家譜紛失は一件、家譜所持者または末裔の不明が六件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失も含む)の八件のうち、字大川が一件、字新川七件である。

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
六世英會小宗	八世英浄小宗	八世英計小宗	八世英愛小宗	八世英美小宗	七世英邦小宗	八世英孟小宗	七世英光小宗	六世英州小宗	七世英濱小宗	八世英興小宗	七世英忠小宗	七世英仍小宗	七世英副小宗	七世英鷹小宗	七世英譽小宗	七世英睦小宗	七世英任小宗
(五世英永の五男)	(七世英睦の三男)	(七世英永の二男)	(七世英承の七男)	(七世英承の四男)	(六世英董の十一男)	(七世英承の二男)	(六世英明の四男)	(五世英任の長男)	(六世英董の九男)	(七世英承の長男)	(六世英明の三男)	(六世英董の七男)	(六世英董の六男)	(六世英明の二男)	(六世英寧の三男)	(六世英董の四男)	(六世英董の三男)
(不明)	(一七二〇)一七七五)	(一七一六)一七七九)	(一七一五)一七七三)	(不明)	(一七二〇)一七七二)	(不明)	(一七〇四)一七六七)	(一七〇四)一七六五)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)	(一六九五)一七五〇)	(不明)	(一六八七)一七二三)	(一六八五)一七六八)
不明	有	有	有	不明	有	不明	有	有	不明	不明	不明	不明	紛失	有	不明	紛失	有
不明	字大川一六二	不明	字大川二八八	不明	不明	不明	字石垣八一	字登野城二三	不明	不明	不明	不明	字新川二六〇	字石垣七九	不明	字大川一六二	字石垣八六
(不明)	黒島	(不明)	崎山	(不明)	(不明)	(不明)	喜舎場	玻名城	(不明)	(不明)	(不明)	(不明)	翁長	大浜	(不明)	黒島	浦崎

34	33	32	31	30
十一世英叙小宗	十世英暢小宗	八世英満小宗	八世英喜小宗	六世英定小宗
(十世英暢の二男)	(九世英陳の二男)	(七世英方の二男)	(七世英永の七男)	(五世英任の二男)
(一八〇二―一八六四)	(一七七一―一八一〇)	(一七五二―一七九六)	(一七三〇―一七七二)	(一七二四―一七五五)
有	有	有	有	有
字新川三五	字新川二六〇	字登野城二二六	字大川三三七	字新川五三
神村	翁長	南風原	石島 旧姓喜友名	宮良

「憲章姓一門の家譜一覽表」(表2)より、憲章姓大宗英乗から分家した小宗家譜などは、三十四件である。そのうち、現存家譜は十八件、家譜紛失は五件である。家譜所持者または末裔の不明が十三件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失も含む)の二十一件のうち、字登野城三件、字大川六件、字石垣六件、字新川五件、字川平一件である。

三、嘉善姓一門の家譜一覽表(表3)

嘉平村出自の仲間満慶山(不明―一五〇〇年)の嫡子・嘉善姓大宗嘉平首里大屋子永展から始まる。

3	2	1	
五世永定小宗	五世永安小宗	嘉善姓大宗永展	家譜名
(四世永正の六男)	(四世永正の四男)	(父は仲間満慶山)	続柄
(不詳―一六三八)	(一五八七―一六七四)	(父は川平首里大屋子満慶山)	生卒年
有	有	(不詳―一六〇一)	家譜の有無
字大川二九	字新川二六四	字大川二八七	(元)住所
宮良	石垣	大浜	所蔵者姓名備考

三世永師の二男永恒、憲章姓大宗石垣親雲上英乗の婿養子。英恒に改名し波照間首里大屋子職に任じられる。

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
十世永美小宗	八世永本小宗	九世永福小宗	十世永孝小宗	九世永業小宗	九世永並小宗	九世永収小宗	九世永岑小宗	七世永活小宗	九世永村小宗	九世永由小宗	七世永與小宗	八世永常小宗	八世永明小宗	八世永竹小宗	七世永里小宗	六世永綱小宗	六世永則小宗
(九世永岑の二男)	(七世永真の三男)	(七世永恒の六男)	(九世永由の二男)	(七世永恒の五男)	(七世永恒の四男)	(七世永恒の三男)	(七世永恒の長男)	(四世永綱の四男)	(八世永吉の二男)	(八世永吉の長男)	(四世永綱の三男)	(四世永榮の三男)	(七世永善の三男)	(七世永榮の二男)	(四世永綱の二男)	(四世永安の三男)	(五世永安の二男)
(不明)	(一六九七、一七六〇)	(不明)	(不明)	(一六九一、一七六八)	(不明)	(一六八七、一七二九)	(一六七八、一七〇八)	(一六七五、一七二四)	(一六七二、一七三五)	(一六七一、一七二七)	(一六七一、一七五一)	(一六七〇、一七五二)	(一六七〇、一七〇〇)	(不明)	(一六六六、一七五三)	(一六五一、一六八六)	(一六一四、不詳)
不明	有	不明	不明	紛失	不明	有	有	有	紛失	有	紛失	有	有	紛失	紛失	紛失	紛失
不明	字新川二四五	不明	不明	字大川八五	不明	字登野城七一	字登野城一九三	字新川二八	字新川三〇二	字大川二〇五	字大川三〇六	字登野城一三一	字新川五二	字登野城一九八	字登野城一八四	字石垣五五	字新川二四五
(不明)	大山 旧姓波照間	(不明)	(不明)	桃原	(不明)	外間	石垣	浦崎	石垣	石垣	崎枝	川平	石垣	金城	森田	平得	大山 旧姓波照間

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22
十二世永正小宗	十一世永陳小宗	十世永林小宗	十世永章小宗	十世永專小宗	十世永愛小宗	十世永參小宗	九世永勝小宗	九世永秀小宗	九世永親小宗	八世永伴小宗
(十一世永林の二男)	(十世永範の四男)	(九世永恵の二男)	(九世永業の五男)	(九世永収の四男)	(九世永収の三男)	(九世永収の二男)	(八世永常の三男)	(八世永吉の四男)	(八世永常の二男)	(七世永與の二男)
(二七八九〜一八五九)	(二七八一〜一八五四)	(一七五三〜一八一六)	(一七四三〜一八〇九)	(一七二七〜一七七二)	(一七一五〜一七七〇)	(一七二二〜一七七二)	(一七〇九〜不明)	(一七〇四〜一七二二)	(一七〇二〜一七五二)	(一七〇一〜一七七二)
紛失	紛失	有	有	紛失	有	有	紛失	有	紛失	有
字登野城一三〇	字登野城三七九	字登野城二〇七	字大川八五	字登野城一一九	字登野城一七七	字登野城八二	字登野城二四五	字新川四一	字登野城一八五	字大川三〇六
与那原	小宮 旧姓宮良	大浜	桃原	有馬 旧姓波照間	宮良	宮良	黒島	大浜 旧姓石垣	大山 旧姓金城	崎枝

「嘉善姓一門の家譜一覽表」(表3)より、嘉善姓大宗永展から分家した小宗家譜などは、三十二件である。そのうち、現存家譜は十六件、家譜紛失は十二件ある。家譜所持者または末裔の不明が四件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失も含む)の二十八件のうち、字登野城十三件、字大川六件、字石垣一件、字新川八件である。

四、上官姓一門の家譜一覽表(表4)

家譜の序文に「復姓を久米村の程順則に求め、上官の二字を得て姓とした」といわれていることから、先祖が琉球王国から派遣された御使者(御検者)の久米程氏京阿波根親雲上実基(不明)であり、初代は上官姓大宗大浜親雲上正廟

ち、現存家譜（家譜紛失を含む）二十一件である。家譜所持者または末裔の不明が十件である。現在確認できる家譜所
 「上官姓一門の家譜一覧表」（表4）より、上官姓大宗正廟から分家した小宗家譜などは、三十一件である。そのう

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
九世正喜小宗	九世正房小宗	八世正浮小宗	八世正依小宗	七世正肥小宗	七世正夷小宗	七世正階小宗	七世正斯小宗	七世正似小宗	七世正社小宗	七世正賢小宗	七世正作小宗	六世正福小宗	七世正起小宗	七世正法小宗	七世正季小宗
（八世正喜の五男）	（八世正喜の三男）	（七世正應の四男）	（七世正肖の長男）	（六世正寄の六男）	（六世正寄の五男）	（六世正儀の六男）	（六世正寄の四男）	（六世正儀の五男）	（六世正儀の四男）	（六世正缶の三男）	（六世正儀の二男）	（五世正則の三男）	（六世正缶の二男）	（六世正寄の三男）	（五世正房の四男）
（一七九〇）一八六三	（一七七五）一八三八	（一七五五）一七八九	（一七二四）一七六一	（一七一）一七八一	（一七〇九）一七八八	（不明）	（未確認）	（不明）	（不明）	（不明）	（一六九八）一七六五	（不明）	（不明）	（未確認）	（不明）
有	有	有	有	有	有	不明	未確認	紛失	不明	不明	有	不明	不明	未確認	不明
字石垣	字石垣二八四	字新川三二	字石垣二	字新川四五	字石垣九六	不明	字新川四二	字石垣二六九	不明	不明	字石垣八八	不明	不明	字大川一八一	不明
前野	仲本	豊川	大田	仲本	當銘	（不明）	宮良	盛山	（不明）	（不明）	石垣	（不明）	（不明）	宮良	（不明）

蔵者（家譜紛失・未確認も含む）の二十一件のうち、字大川三件、字石垣七件、字新川十一件である。

五、長興姓一門の家譜一覧表（表5）

波照間島出自の明宇底獅子嘉殿（不明）一五〇〇年）の長男で屋安古与人赤真屋の孫・長興姓大宗古見首里大屋子善安から始まる。

家譜名	続柄	生卒年	家譜の有無	(元)住所	所蔵者姓名備考
1 長興姓大宗善安	(父は新城与人)	(生寿但不詳)	有	字登野城二〇九	平田
2 二世善方小宗	(大宗善安の二男)	(生寿但不詳)	有	字新川二七	黒島
3 五世善永小宗	(四世善見の長男)	(未確認)	未確認	字登野城二三八	波座真
4 五世善要小宗	(四世善見の三男)	(不明)	紛失	字登野城	豊川
5 五世善孝小宗	(四世善見の四男)	(不明)	不明	不明	(不明)
6 五世善盛小宗	(四世善見の五男)	(一六九一〜一七六九)	有	字登野城二四〇	豊川
7 五世善邦小宗	(四世善見の六男)	(不明)	紛失	字登野城七三九	豊川
8 五世善允小宗	(四世善見の八男)	(不明)	不明	不明	(不明)
9 六世善得小宗	(五世善房の長男)	(一六八四〜一七六二)	紛失	字新川二七四	亀川
10 六世善生小宗	(五世善房の三男)	(一六九五、未確認)	未確認	字新川三〇〇	大浜
11 六世善元小宗	(五世善房の四男)	(一七〇二〜一七五七)	不明	不明	(不明)
12 六世善良小宗	(五世善房の五男)	(不明)	不明	不明	(不明)

13	七世善政小宗 (六世善得の四男) (一七二一〜一七五九)	有	字新川二六八	黒島
14	七世善文小宗 (七世善得の五男) (不明)	有	字新川	花城
15	八世善京小宗 (七世善政の二男) (一七四二丁未確認)	有	字新川三三〇	大浜
16	八世善教小宗 (七世善列の三男) (一七六五〜一八一五)	有	字登野城二四一	波座真

「長興姓一門の家譜一覧表」(表5)より、長興姓大宗善安から分家した小宗家譜などは、十六件である。そのうち、現存家譜(家譜紛失も含む)は、十一件である。家譜所持者または末裔の不明が四件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失・未確認も含む)の十二件のうち、字登野城六件、字新川六件である。

六、山陽姓一門の家譜一覧表(表6)

美良底村出自の那礼当(不明、一五〇〇年)の嫡子・美良底首里大屋子保久利思の曾孫・山陽姓大宗宮良親雲上長光から始まる。

1	山陽姓大宗長光 (父は美良底仁也保久利思) (一五八四〜一六六一)	有	字石垣三三三	宮良
	文林姓大宗方因 (父は三原首里大屋子)	有	字石垣三三一	高嶺
2	二世長重の二男長景、文林氏二世古見首里大屋子方拾へ嗣子。方景に改名し一六二九年宮良頭職に任じられる。	有	字新川二八五	大底旧姓黒島
3	三世長安小宗 (二世長重の四男) (一六五一〜一六七九)	紛失	字新川一四	森山旧姓黒島
4	三世長明小宗 (二世長重の五男) (一六五四〜一六八二)	有	字新川二八七	石垣

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
六世長邦小宗	六世長共小宗	五世長京小宗	六世長邑小宗	五世長真小宗	五世長利小宗	五世長寛小宗	五世長改小宗	五世長秋小宗	五世長寧小宗	五世長苗小宗	五世長岡小宗	五世長次小宗	五世長良小宗	四世長實小宗	四世長休小宗	四世長延小宗	三世長信小宗
(五世長岡の二男)	(五世長良の三男)	(四世長稔の三男)	(五世長敵の二男)	(四世長亮の九男)	(四世長稔の二男)	(四世長延の四男)	(四世長亮の六男)	(四世長延の三男)	(四世長延の二男)	(四世長亮の五男)	(四世長亮の四男)	(四世長状の二男)	(四世長亮の二男)	(三世長孝の三男)	(三世長好の二男)	(三世長孝の二男)	(二世長重の六男)
(一七二九)一七九〇)	(一七一九)一七六九)	(一七二二)一七六四)	(一七一一)一七七二)	(一七一一)一七七二)	(一七二〇)一七七二)	(一七〇八)一七五三)	(不明)	(一七〇四)一七三三)	(一七〇三)一七五〇)	(一七〇三)一七六五)	(一六九五)一七七七)	(不明)	(一六八九)一七七九)	(一六八二)一七一二)	(一六七七)一七三四)	(一六七四)一七四九)	(不明)
紛失	紛失	有	有	有	不明	有	不明	有	有	不明	有	不明	有	有	紛失	有	不明
字登野城六八	字石垣一六六	字新川二八六	字新川二九五	字石垣二四三	不明	字新川八六	不明	字新川八〇	字大川一五五	不明	字新川二九八	不明	字石垣三三三	字石垣七二	字石垣五一	字新川二九一	不明
安谷屋	宜寿次	宮良	中尾 旧姓仲尾次	浦崎	(不明)	平安座	(不明)	宮良	神山	(不明)	国吉	(不明)	豊見本	徳山旧姓渡久山	大浜	宮良	(不明)

31	30	29	28	27	26	25	24	23
八世長列小宗	八世長祥小宗	八世長格小宗	七世長顯小宗	七世長興小宗	七世長永小宗	六世長達小宗	六世長敏小宗	六世長綱小宗
(七世長演の五男)	(七世長孝の二男)	(七世長演の三男)	(六世長友の二男)	(六世長矩の二男)	(六世長備の三男)	(五世長季の二男)	(五世長祥の三男)	(五世長岡の三男)
(一七九六)一八三三)	(一七八九)一八二四)	(一七八七)一八三六)	(一七八四)一八四六)	(一七四八)一八二五)	(一七四一)一八一九)	(一七四〇)一八〇九)	(一七三三)一七五八)	(一七三一)一七七二)
有	有	紛失	有	有	有	紛失	有	有
字大川二八九	字登野城四〇三	字新川二七七	字新川一七	字石垣二四二	字新川九六	字新川二七三	字新川三〇一	字登野城二〇四
大浜	瀬名波	漢那	佐久間	浦崎	黒島	富永	宮良	金城

「山陽姓一門の家譜一覽表」(表6)より、山陽姓大宗長光から分家した小宗家譜などは、三十一件である。そのうち、現存家譜は二十件、家譜紛失は六件である。家譜所持者または末裔の不明が五件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失も含む)の二十六件のうち、字登野城三件、字大川二件、字石垣七件、字新川十四件である。

七、梅公姓一門の家譜一覽表(表7)

一六一九年頃、琉球王国から派遣され来島した那覇梅氏宗珍入道、宗孫(一五五四)一六三六年)の長男・二世亀千代大屋子宗榮(一五八八)一六六四年)、長栄氏四世石垣親雲上信名の二女・大阿母武樽(一五九二)一六七八年)との間に生まれた梅公姓大宗崎原与人孫廣から始まる。

	家譜名	続柄	生卒年	家譜の有無	(元)住所	所蔵者姓名備考
17	四世孫本小宗	(三世孫惟の四男)	(一七一六)一七四七)	紛失	字大川二七八	森田
16	四世孫照小宗	(三世孫範の二男)	(一七一六)一七五七)	未確認	字西表祖納	長堂
15	四世孫俊小宗	(三世孫格の二男)	(一七一四)一七八一)	有	字石垣九五	石垣
14	三世孫繁小宗	(二世孫清の四男)	(一七一二)一七八四)	有	字石垣三一八	大浜
13	三世孫忠小宗	(二世孫清の三男)	(一七〇七)一七五一)	有	字新川二八九	波照間
12	三世孫久小宗	(二世孫春の二男)	(一七〇五)一七七八)	未確認	字登野城二四七	石垣
11	四世孫次小宗	(三世孫惟の二男)	(一七〇三)一七六九)	未確認	字石垣七六	知花
10	三世孫滿小宗	(三世孫普の六男)	(一七〇二)一七七五)	未確認	未確認	宮良
9	三世孫至小宗	(三世孫普の五男)	(一六九三)一七三〇)	有	字大川二六	石堂
8	三世孫敏小宗	(三世孫普の四男)	(不明)	未確認	字大川四九	石垣
7	三世孫真小宗	(三世孫普の二男)	(不明)	未確認	字大川二〇三	石堂
6	三世孫格小宗	(二世孫永の三男)	(一六八七)一七五六)	有	字石垣六一	牧野 旧姓坡名城
5	二世孫普小宗	(大宗孫廣の五男)	(一六五九)一六九四)	紛失	字大川一八七	石垣
4	二世孫清小宗	(大宗孫廣の四男)	(一六五五)一七二九)	紛失	字新川三	宮良
3	二世孫永小宗	(大宗孫廣の二男)	(一六五一)一六九〇)	有	字石垣七八	喜舎場
2	二世孫親小宗	(大宗孫廣の長男)	(生死年号月不詳)	紛失	字大川	坡名城
1	梅公姓大宗孫廣	(父は那覇梅姓二世宗榮)	(一六二〇)一六六一)	有	字新川二九九	渡久山

「梅公姓一門の家譜一覽表」(表7)より、梅公姓大宗孫廣から分家した小宗家譜などは、三十一件である。そのうち、現存家譜は十六件、家譜紛失は五件、未確認七件である。家譜所持者または未裔の不明が四件である。現在確認できる家譜所蔵者(家譜紛失・未確認も含む)の二十七件のうち、字登野城二件、字大川七件、字石垣十一件、字新川五件、字西表祖納一件、不明が一件である。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18
五世孫香小宗	六世孫職小宗	五世孫記小宗	五世孫宣小宗	五世孫致小宗	五世孫濱小宗	五世孫泰小宗	五世孫廟小宗	五世孫遙小宗	五世孫茂小宗	五世孫良小宗	五世孫重小宗	四世孫福小宗	四世孫門小宗
(五世孫造の二男)	(五世孫重の三男)	(四世孫俊の五男)	(四世孫羽の三男)	(四世孫制の二男)	(四世孫昌の三男)	(四世孫俊の四男)	(四世孫俊の三男)	(四世孫俊の二男)	(四世孫秀の二男)	(四世孫秀の長男)	(四世孫浩の二男)	(三世孫忠の三男)	(三世孫忠の二男)
(一七七六)一八〇四)	(一七七二)一八三一)	(一七六八)一八三〇)	(一七六七)一八四二)	(一七六一)一八三〇)	(一七五八)不詳)	(一七五一)一八一八)	(一七四九)一八一八)	(一七四七)一八〇二)	(一七四五)一七七二)	(一七四三)一七七二)	(一七四〇)一八一二)	(一七三五)一七九六)	(不明)
有	有	有	有	有	不明	不明	紛失	有	不明	有	有	未確認	不明
字大川二七八	字石垣六二	字石垣九七	字登野城一七八	字新川二八九	不明	不明	字石垣一一八	字石垣九四	不明	字石垣七〇	字石垣一一三	字新川一八	不明
森田	大浜	黒島	竹原旧姓我那覇	波照間	(不明)	(不明)	大浜	石垣	(不明)	西表	仲里	花城	(不明)

	他字			字登野城			字大川		
	家譜所持不明者数	戸主の累計	家譜の所持者数	家譜の所持者数	戸主の数	家譜の所持者数	戸主の数	家譜の所持者数	戸主の数
1	六	二十七	〇	〇	〇	一	一	五世高満小宗	一
2	十三	四十七	一(三三%)	六世英州小宗	八	六	六	大宗英乘	六
3	四	六十六	〇	七世永里小宗	三十六	六	五	五世永定小宗	五
	一〇	四十五	〇	なし	一	三	四	六世正資小宗	四
	四	四十	〇	大宗善安	二十二	〇	〇	なし	〇
	五	一一一	〇	六世長邦小宗	四	二	十四	五世長寧小宗	十四
	五	七十六	一	三世孫久小宗	四	七	十一	二世孫普小宗	十一
	四七	四二二	二		七五	三三	四一		四一

- 1 山陽姓大宗長光(一五八四～一六六一)は、孫で長孝(一六四五～一六八六)年、長安(一六五一～一六七九)年、長明(一六五四～一六八二)年)などの屋敷所在から現在の居住地以前に字新川の慶田盛村に住んでいたと思われる。
- 2 長興姓大宗善安は、大宗善安の舅や大宗善安の二男で善方の屋敷などの所在地から現在の居住地以前、字新川の慶田盛村に住んでいた。
- 3 『八重山島年来記』の一五八九年の項に「慶田盛村いしとの石垣親雲上頭成ル」と記載された方が、憲章姓大宗英乘である。また、『憲章姓大宗英乘』家譜の元祖英乘の項にも、「室真比大阿母、母慶田盛住鍋山大阿母」と字新川の慶田盛村が記載されている。

右の家譜所持者累計一覧表により、字新川地に居住していた各一門（門中）の大宗を起点に広がった小宗家譜総数が百八十九点あったことになる。これにより八重山における家譜総数は、長栄姓、松茂姓、錦芳姓、毛裔姓など他の一門の家譜所持者を含めると、三百五十点ほどであったと思われる。

また、石垣市総務部市史編集室『石垣市史叢書 8 参遣状抜書（上巻）』（一九九五年／石垣市）の康熙四十年（一七〇一）辛巳の項には次のように記述されている。

【原文】

一、死人之儀、古来々墓一所二吉人ツ、葬置候、墓所八三、四尺程之石二而造立、太分之物入二候間百姓差禿、到先々キ八畠方之障二も可罷成候条、御当地同然二被仰付可然奉存候

【要約】

一、死去した人は、古くから墓は一か所に一人ずつ葬っています。墓は三、四尺程の石で造るので、多大の出費となり百姓は衰微しています。将来は畑地に支障をきたすことにもなるつから、沖縄と同様に命じるべきかと思えます。

このように記載されていることから、各一門の家譜小宗数や個人墓などの志向より、沖縄本島の同一の一族（門中または一門）の門中墓や本家を中心とした繁栄よりも、自家の繁栄を大切にすする志向が根強かったことが分かる。その点についても、郷土史家・宮城文氏は『八重山生活誌』（一九七二年／自費出版）の「一生の三大事業」の項で「私ど

もの先祖は数え年十五才の少年、少女の時代から五十才になるまで苛酷な貢納と公役を負わされ、まるで薩摩藩と琉球王に酷使されるために生まれてきたようであった。しかし私どもは先祖は食うや、食わずの生活苦の中でも立派な家を造って住むこと、立派な墓を持って祖霊に安堵していただきたい、井戸を掘って水を自由に使いたい、三つの目標にして懸命に努力したのである」と述べている。

家譜所持不明者数の四十七小宗家は、四力村（字登野城、字大川、字石垣、字新川）の海岸地帯に屋敷を構えていたと思われる。一七七一年三月十日の未曾有の大津波や、その後の大飢饉や病気などの蔓延によって、家督の継ぎもなく一家が全滅し、廃家になったと思われる。

一六〇九年、薩摩藩による琉球国攻略の歴史の中で大きな世替わりは、もちろん人々にさまざまな変化を強いることになり、八重山のキリシタン事件（一六二四～四二年）前後の字新川の慶田盛村に居住していた各一門の大宗家や小宗家の人々にも大きな動揺が見られる。

嘉善氏四世石垣親雲上永正（一五五〇～一六二〇年）の二男で宮良親雲上永將（不詳～一六二四年）や、三男の宮良親雲上永弘（不詳～一六三五年）が字登野城三番地の岸若村へ、三男の宮良与人永定（不詳～一六三八年）が現在の字大川二九番地（当時は岸若村）へ、憲章氏四世で長男の大浜親雲上英森（一六〇二～四二年）が字大川二八七番地と三男の川平首里大屋子英種（不可考）も字大川二九七番地の本名村へ、二男の大浜与人英政（不可考）が字石垣二九〇番地、四男の登野城与人英仁（不可考）が字石垣九九番地へ、山陽姓大宗宮良親雲上長光（一五八四～一六六一年）が字石垣三三番地の波揚名村へ、長興姓大宗古見首里大屋子善安（不可考）が字登野城二〇九番地の岸若村へと、津口（港）や新天地を求めて字登野城、字大川、字石垣へと島移りを行っている。

また、本家の山陽姓大宗長光が字石垣三三番地に島移りした後、本家の二世宮良親雲上長重（一六一七～九三年）の

三男・三世黒島首里大屋子長孝（一六四五〜八六年）、五男の三世花城与人長明（一六五四〜八二年）から枝分かれした
大多数の山陽姓一門の人々が、字新川の地にこたわりながら生活・繁栄をしている。



慶田盛村の井戸（ケダモリカー）と
井戸があった上官姓大宗正廟の屋敷跡